

## 市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024年	3月	12日	(記入者) 西田 裕美	
取材参加者	石井	井本	小倉	西田	三谷
	本井	横山			
取材対象先	奈良市：伝香寺の木造釈迦如来坐像				

所在地	奈良市小川町24				
所有者(取材 対応者)名	伝香寺 西山明彦(みょうげん)住職 西山明範(みょうはん)執事 (個人情報守秘)			連絡先 0742-22-1120	
				PCアドレス	
取材申込	申込先・行政名など：伝香寺				
市町村 指定文化財	彫刻	1	軀	木造釈迦如来坐像 1985(昭和60)年3月7日指定	
	建造物		棟	名称(指定年月日)	
文化財指定理由	伝香寺の本尊として、1585(天正13)年に建立された本堂に安置されている。本像も同じ頃の作とみられる。均整のとれた端正な像容で、衣文も流麗で、截金(きりかね)文様をほどこして丁寧仕上げられ、この時期の仏像のなかで出色の作行を示している。作者は銘文から「なら下御門」の仏師「宗貞」と判明。(奈良市ホームページ参照)				
<b>文化財の状況</b>					
防火対策	設備・対策・点検・通知方法など			記入者の感想	
	本堂には火災を感知するしくみがある。電気システムを新しくしたので漏電も無い。使うろうそくは1本だけにして確実に消している。			本堂に対策がなされており、仏像も心配はない。	
獣害対策	被害の有無、対策など			記入者の感想	
	イタチ、アライグマ、白アリなどの被害は無い。			特にない。	
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	西山明彦住職は以前、筒井氏の子孫を捜して電話帳をたよりに全国の筒井姓の方6000軒に手紙を出した。そのうち210余通がもともとは奈良の筒井であると返事が返って来た。この大和筒井家の子孫により、全国筒井氏同族会が結成され、筒井順慶像と御堂が1983(昭和58)年、筒井順慶の400回忌に際して造立された。現在も全国から「奈良の筒井です」と言って手を合わせに来る方がいると住職が語っていた。多くの手間をかけて筒井の子孫の方々と伝香寺との縁を再び結んだことに心を動かされた。				
<b>取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)</b>					
伝香寺には、重文の本堂以外にも地蔵菩薩立像(重要文化財)や表門(県指定文化財)、南無仏太子像(県指定文化財)、筒井順慶画像(市指定文化財)など多くの文化財があり、相応の整備点検がなされていると思われる。奈良の三名椿の一つ、武士椿ともいう散り椿もある。また、同じ敷地内にいさがわ幼稚園があり執事様もそこで園児たちと過ごしている。地蔵信仰の寺としてまた花の寺として親しまれていると同時に、地域の人々とのつながり、全国の筒井家とのつながり、唐招提寺とのつながりがあり、住職および執事様が日々尽力されていることが今後の伝香寺につながると感じた。					

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2024年	3月	12日	(記入者) 西田 裕美	
取材参加者	石井	井本	小倉	西田	三谷
	本井	横山			
取材対象先	奈良市：伝香寺の木造釈迦如来坐像				

《写真撮影許可済》

文化財指定名 木造釈迦如来坐像

木造釈迦如来坐像 (全体 正面 横から)



須弥壇に安置された本尊

本堂と散り椿



文化財の由緒などを記入

所有社寺や地域（廃寺等）の歴史や特徴を記入

筒井順慶が36歳で亡くなった時、母である芳秀尼(尊栄<sup>たかえ</sup>)(山田道安の娘)が発願し、正親町天皇に伝達されて菩提を吊う寺地と仏を拝した。当時豊臣秀吉が方広寺大仏の試みの仏を作らせており、それが伝香寺の本尊となった。方広寺の大仏は阿弥陀であったが、筒井順慶の父筒井順昭の菩提寺である圓證寺の本尊が釈迦如来なので、伝香寺でも釈迦如来として祀られていると説明していただいた。

鑑真の弟子である思詔が唐風の実円寺を草創した場所に伝香寺が建つ。伝香寺建立の際、順慶の母は唐招提寺の泉奘(せんじょう)律師(今川氏の出身)を請(しょう)じ、中興の祖とした。順慶の養子定次(さだつぐ)の時代、家康によって男子は切腹を命ぜられ筒井氏は戦国武将としては途絶えたが、旗本として残った。時代が下り幕末になっても旗本としての筒井氏は健在で、筒井政憲(しょうけん)は川路聖謨のもと、全権大使としてロシアと交渉し下田条約を結んだ。